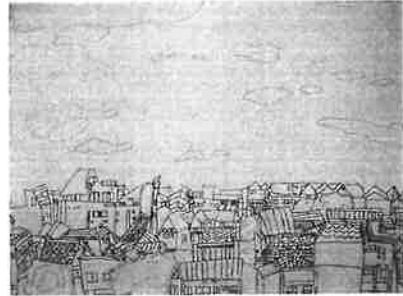


わがまち *Araijuku*
新井宿



「明るい私たちの町」
 入新井第四小6年
 ほんとう
 瑠花さんるかの作品

わがまち新井宿
創刊 20 周年記念特集号

おかげさまで、地域情報紙「わがまち新井宿」は創刊20周年を迎えることができました。
 今号は紙面倍増の8頁立てでお届けします。
 その記念特集として、大田区長と新井宿自治会連合会長からお祝いの言葉をいただきました。

大田区長

松原 忠義



創刊20周年おめでとうございます。創刊からこの20年間、様々な地域の問題を情報発信し続け、このたび60号を迎えられました。歴代編集委員のご努力に敬意を表します。

これまで「わがまち新井宿」において取り上げられた記事は、近年の課題となっている地域の安全安心への様々な取り組みを始め、歴史・文化についての紹介、戦争体験、身近な生活に関することなど多彩であり、取材範囲の広さとこの地域の奥の深さを感じます。

特に新井宿は、多くの作家や芸術家と縁のある地域でもあります。「新井宿ゆかりの文学紹介」コーナーにおいて、芸術・文化に関わる多くの人々を取り上げ、ご紹介いただいていることなども大きな特徴です。これらの記事は緻密な取材に基づいたものと感じられる大変充実した内容であり、紙面からは深い歴史と文化に対する地域の方々の愛着が伝わってきます。今後の展開を楽しみにしております。これまで編集に携わった方々に対し厚く感謝申し上げますとともに、これからも歴史と文化の香るこの地区で、地域情報の発信にご活躍いただくことをご期待申し上げます。お祝いの言葉とさせていただきます。

新井宿自治会連合会長

渡部 作次



創刊20周年おめでとうございます。創刊から20年もの間地域の情報を発信し続けていただいた歴代編集委員の皆様に対し感謝申し上げます。いつも楽しく読ませていただいておりますが、20年という時の流れの速さを感じるとともに、これまでの地域の出来事が改めて思い出されます。

新井宿は防災に対する取り組みに力を入れ、各自治会・町会が特色ある活動を行っておりますが、地域情報紙において安全・安心に対する取り組みやお知らせを多く取り上げていただきました。また阪神淡路大震災や東日本大震災の際は、災害への備えを更に呼びかけていただきました。

一方で、お祭りなど地域の楽しい行事、大田文化の森の開館はじめ様々な地域の出来事も取り上げていただき、情報の発信に大きな役割を果たしていると感じます。

これまで様々な出来事を地道に取材し、地域の方々が読みやすいよう記事にする作業は大変だったと思います。このたび大きな節目を迎えましたが、是非これからも10年・20年と地域の人々のために様々な情報を発信していただくことを期待いたします。

わがまち新井宿

創刊号発行の思い出

初代編集委員長 中央一丁目町会 田中 愛二



「わがまち新井宿」が創刊されたのは平成5年のことである。当時私は中央一丁目町会の町会長なるものをしてきた。その頃の連合会長は篠原善次郎さんであった。新井宿出張所管内の八つ自治会、町会を束ねて活躍をしていた。今でも町会長の日々の多忙さは変わりないと思うが、出張所などで午前午後と連続の会議が開かれたりすると篠原さんは皆を自宅に帰さず休憩室に全員が集まりゴロ寝をしながら午後の会議を待つと言う熱烈な会長でもあった。

編集長という大役

その様な町会長の役に更に加わったのが地域情報紙「わがまち新井宿」の編集長という大役だった。この大役を誰が決めたのか分からないが区議会議員で中央四丁目会長の岩井久年さんから話があり、彼とは小学校の同級生でもあったので断り難く困っていた。

だが、私にとってこの困った話も何時の間にか進展し、次第に各町の編集委員さんも決まり、出張所側は田中高雄さんという地域担当の職員に決まるといようにどんどん話が進んでいった。そのうちに第一回の編集会議を致しますという事になり、当日は委員さん方の初顔合わせ、基本的な情報紙の体裁を決めることなどの検討の会議となった。机の上には参考にと出張所が集めてきた他の地域の既刊情報紙が山と積まれた。編集委員皆未経験の世界、初めて見る地域情報紙は体裁も大きさもさまざま、紙一枚のもの、二つ折のもの、縦置き、横置き、縦書き、横書き混在のものなど千差万別の情報紙を検討する羽目になった。結局B4版横書き、二つ折、縦書き、折られた真ん中の空白も使い記事を書き載せることにした。情報紙名も当然「わがまち新井宿」と決まる。

表題の文字デザイン

この日の会議には表題の文字デザインなどは出来

ず、後で私が自宅で考えることにして散会した。家に帰って次の編集会議に間に合うようワープロに向かう。この機械は簡単な「DTP」というデザイン機能がついていて、それを利用すれば何とか成るかと思って取り組む。何回もの試行錯誤の上、出来あがったのが現在でも使っている「わがまち新井宿」の文字デザインである。「新井宿」を毛筆体で大きく書き、小さく「わがまち」と一文字ずつ丸く「新」の上を囲み、ローマ字の斜体でAraijukuと書くデザインが出来上がった。今はパソコンに「DTP」ソフトを取り組めば縦書き横書きを自由に混在できるし、文字の拡大縮小も簡単だが、当時のワープロはレイアウト機能が少なく、文字を一文字ずつ離して丸く並べたり、斜体文字を使って変化をつけたりして苦労した覚えがある。

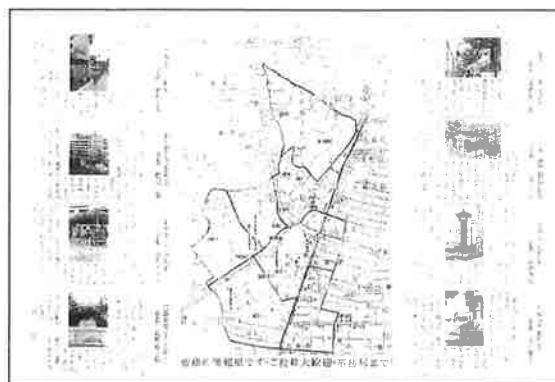
記事の内容は創刊号らしく連合町会長篠原さんのご挨拶と新井宿の地名由来を区の教育委員会の資料で探し1面に、2面3面は各自治会長、町会長に地域の話を書いて貰い、新井宿出張所管内の地図、自治会町会の範囲等の基本的な記事にした。裏の4面は地域のイベントなどの記事で満たしたかったが、年3回発行の情報紙ではホットニュース的な記事は発行日との関係で掲載出来ないと思い、他の情報紙に掲載してあった「なんでもQ&A」形式の質問記事などを載せて紙面を埋めた。

しかし、2号・3号、4号と号を重ねてゆく内にメインテーマが出来ず、桜の名所を紹介したり、公園を紹介したりの苦策で凌いだ事を思い出す。

あれから20年

編集委員長は初代の私が3年、南雲博康さんが2年、平林清太郎さんが2年、高橋紗英子さんが13年と引き継がれ、そして今回、若生一順さんが

新たに就任なされ、住民の皆様のための興味溢れる記事や地域の情報発信の重要な媒体としてご尽力を頂くことになり真に喜ばしく思う次第である。



平成5年12月1日発行創刊号

わがまち新井宿

創刊20周年に寄せて

新井宿特別出張所長 **遠藤 彰**

創刊20周年おめでとうございます。「わがまち新井宿」は平成5年から現在まで地域の情報を発信し続け、地域の方々に愛読されています。素晴らしいと思います。歴代編集委員の皆様へ感謝申し上げます。

わがまち新井宿の特徴

これまでの「わがまち新井宿」をあらためて振り返ってみると……防災、防犯、子育て、高齢者見守り、文学、芸術、歴史、教育、地域行事、商店街、区施設紹介、わがまちの今昔、戦争体験等々……範囲の広さに驚きます。そんななか「わがまち新井宿」の特徴はなんだろう……と考えてみました。

まず、安全・安心に対する熱心な取り組みです。阪神淡路大震災後は号外を発行しました。これまでも、防災に対する取り組みを多く紹介されていて、大切な情報を地域の方々へ発信しなければという編集委員の強い思いを感じます。

そして、芸術・文学紹介記事の豊富さです。新井宿に縁のある作家・芸術家が多いことに驚きました。取り上げている人も小説家から翻訳家、洋画家、日本画家と多彩です。読み応えがあり、シリーズとしてまとめると一冊の本になってしまうのではないかと思います。

注目される発信源として

更に、新井宿の歴史を伝え続けていることも大きな特徴です。新井宿義民六人衆・六郷用水の紹介や、8月1日号で戦争体験を掲載するなど、歴史を次世代に伝えていきたいという地域の思いが受け継がれているのでしょう。「わがまち新井宿」は現在、区ホームページから検索できることもあり、掲載内容について他地区の方から問い合わせを頂くこともあります。これは注目されていることの証でもあります。これからも地域の貴重な情報源になるとともに、他の地域へ発信する大切な発信源となることなのでしょう。今後もどんどん情報を発信していただきたいと思います。



現出張所の入口で

出張所新築移転の最新情報

さて、今まで区の様々な施設についてもご紹介いただきました。大田文化の森、山王会館、龍子記念館等です。そして20年目を迎える今年、新井宿特別出張所も取り上げていただきました。移転・改築についてです。新井宿特別出張所は大田文化の森向かい側に移り、3階建ての庁舎として生まれ変わります。59号の1面で概要をお知らせしましたが、今回は外観とレイアウトをご紹介いたします。1階は窓口業務、2階は小会議室と地域防災倉庫、3階は大会議室という構成です。建物内はエレベーターを設置しますので各階の移動が楽になります。外部は屋上と壁面を一部緑化し、太陽光発電を設けるなど環境面にも配慮しています。なによりも大田文化の森の向かい側、立ち寄りやすいバス通りに面した角地に移りますので地域活動において、様々な活用ができるのではと考えています。

工事は今年の10月から始まり、平成26年度中に完成・引越しをする予定です。地域の拠点としていつまでも親しまれる施設となればと思います。



新しい新井宿特別出張所の平面図と外観イメージ図

*山王三丁目東自治会長 石川 義雄

当自治会は、戦後すぐにできた商店街が中心となっています。昔から便利に買い物ができることはもちろん、人と人が優しくふれあえる地域を目指してきました。そんな思いを形にしたもののひとつが、昨年オープンした「アキナイ山王亭」です。

商店街にいらした皆様に、ひと休みしておしゃべりを楽しんだり、隣接する公園でお子様と遊んだり、お買い物の合間に憩いのひと時を過ごしていただければと思います。

写真は平成23年3月に完成した大森柳本通り商店街の新アーケード工事の模様と完成後のものです。新アーケードの愛称は公募の結果「ウィロード山王」に決まりました。



*山王三・四丁目自治会長 鈴木 英明

私たちの自治会は今年で創立60周年を迎えます。この20年の間に商店街の有様や住宅環境の大きな変化と、防災や高齢者見守りへの関心の増大に応じて、自治会の活動の重要性が高くなってきました。防災協力隊を核に現実的な防犯防災体制を構築するとともに、役員や班長、福祉委員が中心となって、未来に向けたご近所マインドを醸成して活発で明るいまちづくりを進めています。



◀定期総会・班長会の様子
安心安全で住めるまちづくりを目指して、役員・班長・会員とで今年も活発な意見が出されました。町への関心が高まっています。

マラソン大会▶
昨年からはまった弁天池公園での子供主体の春のマラソン大会。
未来のオリンピック選手目指してがんばれ!!



わが自治会



この20年間（平成5～25年）で、新井宿地区は大なんと言っても大田区役所の移転です。区役所が蒲池上通り沿いの景観や町全体も大きく変貌し、大森赤竣工、防火防災設備の充実などなど……様々な社会イ会のこの20年間のあゆみの中で、記憶に残る重要な出

*中央四丁目町会長 野口 宏

以前から災害に関して高い危機意識を持ち、活発に活動をし、町会内にある大森赤十字病院とは、阪神・淡路大震災が起こる2年前の平成5年にいち早く「相互応援協定」を締結して合同防災訓練を実施してきました。

長年にわたる防火防災に関する活動が高く評価され、平成23年には東京消防庁から「地域の防火防災功労賞」を受賞し、更に昨年4月には東京都から「東京防災隣組」の認定を受けました。今後は、大田区が進める学校防災活動拠点事業に沿った形で町会内にある大森第三中学校と連携し、地域防災力を担う若い力を育成していきたいと考えています。



▲大森三中での防災訓練

◀地域の防火防災功労賞 賞状と楯

*新井宿五丁目町会長 山岸 稔

新井宿五丁目町会の20年間の変遷のなかで、一番顕著なものは、大田区役所が蒲田駅前に移転し、跡地に「大田文化の森」が出来たことです。それ以前、大田区役所と五丁目町会との直接的な関わりは、ほとんどなかったように記憶していますが、「大田文化の森」が新たに作られてからは、住民参加による「大田文化の森運営協議会」への町会からの推薦者の参画があります。その他、「夏祭り」などのいろいろなイベントへの協力や参加もあります。五丁目町会員の念願だった図書館が開設され、ホールでは身近に本格的な芸術や芸能に触れることができ、また、多くの講座や講習があり、子供からお年寄りまで広く利用し、五丁目町会員と密接な関係にあります。



▲移転前の大田区役所



▲現在の大田文化の森

*山王三丁目町会長

南雲 博康

20年の歩みの中で、緑茂る古い戸建が分譲されることにより、緑が減少しています。商店街も主に、2階建てで人が行き交う賑わいの通りでした。今は高層ビルが目立ち、自転車に乗る人が増え、忙しく通り過ぎる気がして、時の流れを感じています。また、現在山王三丁目6番地先～山王二丁目1番地先の間（池上通り下）で、昭和40年に埋設した水道管を「耐震継手管」に更新する工事が、シールド工法（非開削工法）で行われています。これにより安全でおいしい水が安定的に供給され、今まで以上に地震に強い水道管に生まれ変わります。非開削工法は発進立杭を築造した近隣を除き、車線規制、震動、騒音、埃の飛散も無く、平成27年3月下旬（予定）まで工事が行われます。



◀シールド掘進機
世界最高技術のシールド掘進機は、もぐらのように地面の下を繰り抜いて、直接トンネルを築造していく工事用の機械で毎分3cmの速度で工事をします。

*中央一丁目町会長

岩井 克文

中央一丁目は、臼田坂通りから環七に向けて、レンガ舗装の道路（平間街道などと呼ばれ、歴史的道路でもあります）が縦断し、この道路沿いに町会のシンボルでもあります春日神社があります。平成20年の「ご遷座70年」を記念した「御社殿、境内整備事業」と「新神興庫建設事業」が完了致しまして、装いも新たな境内をご覧いただいているものと思います。また平成7年には神社の斜め向かい側に春日公園が完成し、多くの方の憩いの場となり、防災訓練、餅つき大会など町会の行事の拠点にもなっています。



▲昭和15年の春日神社の大鳥居

▼餅つき大会で賑わう春日公園



▲現在の春日神社の大鳥居



町会の20年

大きく変貌を遂げました。記憶に残る出来事のトップは、田に移転し、その跡地に大田文化の森が出来ました。十字病院のグランドオープン、馬込幹線下水道工事のノフラも整備されてきました。ここでは、各自治会・町会来事を、各自治会・町会ごとに寄稿していただきました。



*新井宿六丁目町会長

渡部 作次

越後の地より上京し、半世紀余、大森の地に根がついて居ります。現在地を生活の場として四十五年、掘割が桜並木に変わったり、工場跡が桜公園になり、子供等の元気な声がする明るい街となりました。町会の長として今年で13年を迎え、そろそろ若返りの時期と思って居ります。今後とも六丁目をよろしくと同時に明るい街作りに力を結集して行きましょう。写真は観音通り五差路付近の45年前と現在のものです。



*新井宿七丁目町会長

安原 清之

このたびは会長を務めさせていただきます安原です。当町会は内川という川で大森西一丁目と四丁目がつながっています。この20年の間、周囲は工場跡地がマンションへ変わっていきましたが、春が来ると小魚や白鷺や鶺鴒が来るなど、四季の移ろいを今も感じることができます。町会の皆様には仲良く、明るく住みやすい町づくりと行事に参加していただけるよう、誠心誠意努力いたします。皆様のご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。当町会では24年度に新井宿五丁目町会様と合同で入二小で防災訓練を実施しました。同じ避難所を運営する町会同士が協力することで、今まで以上に実践的な訓練になりました。今後も継続していく予定です。



平成24年10月28日 合同で行った防災訓練

新井宿 歴史散歩(其の二)

歴史ミステリー 一枚の写真

「武運長久を祈る」

— 終戦記念日に寄せて —

昨年(2019年)の12月1日号での「懐かしい写真を
お寄せください」との問いかけに対して中央
四丁目町会の方から一枚の写真(右ページの
[写真4]:原寸引き伸ばし)が編集委員会
事務局に寄せられました。当時の写真として
は、珍しく、撮影日付が明記され、タイトル
は写真左上に旧字体・右書きで印字されてい
ます。念のため、右ページの写真の下に、新
字体・左書きでタイトルを表示しました。タ
イトルの内容は概略、次の通りです。

**昭和13年2月13日に、鎮守春日神社で大
森区新井宿南町会主催の第2回「国威宣
揚・出征将士・武運長久祈願祭」の記念撮
影が、新井宿三・四丁目の出征将士の家族
の参加のもとに行われた。**

写真には、子どもから大人まで幅広い年齢
層の方が写っております。ここに写っている
小学校入学前の子どもたちは、現在80歳前
後と思われます。もしかしたら読者の方で懐
かしい自分を発見された方がいらっしゃるか
もしれませんね。ご婦人方の中には、「愛国
婦人会」や「大日本〜婦人会」と書かれた襷
(たすき)をした方も写っています。

この2ヵ月後の昭和13年4月には、国家
総動員法が制定され、太平洋戦争(大東亜戦



▲ [写真1] 昭和初期の春日神社

争) に向って、時代がまっしぐらに動いて
いった激動の時期に開催された祈願祭だっ
たのです。昭和2年発行の『入新井町誌』に
建て替え前の春日神社の写真([写真1]参
照)が掲載されていました。今回取り上げた
写真と同様に社殿の前に狛犬が鎮座してい
るのが分かります。この狛犬は、現在、春日
通りに面した鳥居の後ろ側に鎮座しており、
台座には明治25年12月建立と刻まれていま
す。([写真2]参照)春日神社の資料によれば、
この年、昭和13年に現社殿が造営遷座され
たとのこと。

また、現在、社殿に向って右側に「殉国碑」
が建立されていて、碑文には次のように刻ま
れています。([写真3]参照)

**「大東亜戦争中 護国のため 生命を
捧げられし 戦没者の み霊のために
この碑を 建立す」**

昭和41年6月17日

贈 岩井文太郎 横山信太郎

今回取り上げた写真に写っておられる出征
将士の方々の中には無念の死を遂げられた方
もおられることと思います。

毎年、春日神社では秋祭の際に、この「殉
国碑」の前で戦没者の御霊のために殉国慰
霊祭がしめやかに執り行われています。

今年もまもなく終戦記念日がやってきま
す。悲惨な戦争が再び起きないよう大田区
では、世界の恒久平和と人類の永遠の繁栄を
願って、毎年「平和都市宣言記念事業」を
実施しています。

平和の尊さを再認識しつつ、ひとまず今回
の「歴史散歩」終りとさせていただきます。



▲ [写真2] 現在の狛犬と鳥居



▼ [写真3] 殉国碑



▲ [写真4] 昭和十三年二月十三日於 鎮守春日神社大森区新井宿南町会主催第二回
 國威宣揚出征將士武運長久祈願祭 記念撮影 (新井宿三・四丁目出征將士家族)

「新井宿歴史散歩」に反響が…

東京市併合記念の寒暖計

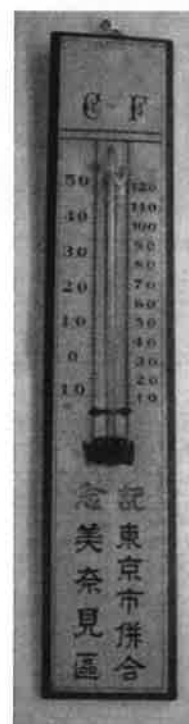
平成24年12月1日号に掲載した「新井宿歴史散歩(其の一) 歴史ミステリー 一枚の写真」をお読みにになった中央一丁目町会の岩井克文会長が右の木製の寒暖計を編集委員会事務局(新井宿特別出張所)にお持ち下さいました。この寒暖計は大正の終りから昭和の始めにかけて荏原郡入新井町大字新井宿の美奈見区長を務められた岩井文太郎さん(岩井会長の御祖父さん)が昭和7年に東京市に併合された時に、記念品として作られた寒暖計で、裏面には、墨で次のように書かれてありました。

「昭和七年 東京市になる 東京府荏原郡入新井町字新井宿

美奈見 子母沢 山王(皿沼、河原作 不入斗)」

「東京市大森区新井宿」に住居表示が変わった時期に、あえて「記念東京市併合 美奈見区」と記してこの寒暖計を作られており、「美奈見区」に対する岩井文太郎さんの思いの深さが、ひしひしと伝わってきます。

地域の大切な歴史資料として未永く後世に伝えていきたい寒暖計です。



受賞おめでとうございます
 新井宿自治会連合会総会 感謝状贈呈

- | | | | |
|---------|-------|-------|-------|
| 《退任会長》 | 吉川 勉 | | |
| 《退任副会長》 | 大塚 昭司 | 山田 容子 | 梁田ユリ子 |
| | 大塚由紀子 | 平林 祥子 | 金田 克己 |
| | 小林 利男 | 熊倉 徳明 | 宅明伸支郎 |
| 《永年在職者》 | 秋山 崇一 | 萩原 千史 | 木村 雄二 |
| | 中井富久江 | 稲田 君江 | 平林貴以子 |
| | 若生 一順 | 森山 敏男 | 佐藤 修身 |
| | | | 中西 勝子 |
| | | | 太田 みゑ |
- (敬称略)

『わがまち防災マップ』が完成しました



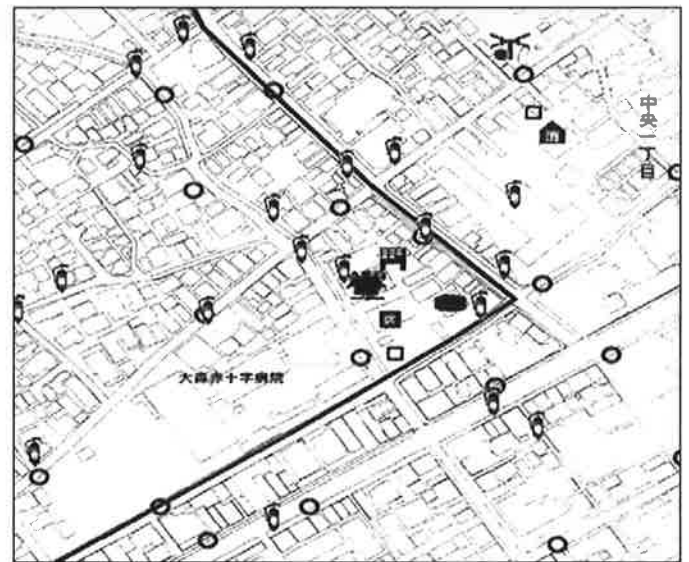
『わがまち防災マップ』は、自治会・町会ごとに、大田区で把握している防災資源（強み）を地図上に表したもので、ひと目で分かるように工夫されています。大田区内の全217の自治会・町会ごとに作成され、新井宿地区でも既に各自治会・町会ごとに配布され、新井宿特別出張所でも閲覧可能となっています。また、大田区の公式ホームページからも印刷することが出来ます。

首都直下型地震で生き残る、最低限の生活を確保するため、区民の自助・共助の取り組みを今以上に充実しなければなりません。

しかし、これまで提供されている情報は都や区単位の情報を中心で、区民にとって、必要な地域情報が十分提供されているとはいえませんでした。

地図上には、防災設備（街頭消火器、消火栓、防火水槽、AEDなど）が分かりやすく表示されています。

この『わがまち防災マップ』は、まち歩きや図上訓練、打合せに活用するなど、アイデア一つで様々な活用ができます。『わがまち防災マップ』の充実を図ることは、災害時に役立つ有効な資料となります。様々な場面で日頃から気軽に手にとって内容を吟味し、区民と大田区が意見を交換する中で、内容と活用方法の充実を図り、予期せぬ災害に備えたいものです。



『わがまち防災マップ』 新井宿特別出張所付近



ようこそ、安倍首相
 わがまち新井宿へ

今年 2 月 27 日、前号でご紹介した株式会社フルハートジャパン（代表取締役 國廣愛彦：大田区中央三丁目）に安倍晋三総理大臣が訪れ、経済産業省が中小企業支援策のために新設した「ちいさな企業」成長本部」の初の地方会議が開催されました。

会合では、政府関係者の前で、下町ボブスレーネットワークプロジェクト細貝淳一実行委員長が、「世界に大田区の技術を示していきたい」と力強く語る場面もありました。

翌日 2 月 28 日に行われた国会での安倍総理大臣の施政方針演説において、「小さな町工場から、フェラーリやBMWに果敢に挑戦している皆さんがいる」と、大田区の町工場の技術を結集して取り組む下町ボブスレーネットワークプロジェクトを紹介。「世界一を目指す気概を持った皆さんがいる限り、日本はまだ成長できると



▲にこやかに談笑する
 安倍首相と國廣社長

確信している。今こそ、世界一を目指していこうではありませんか」と、力強く語られました。

「ちいさな企業」成長本部」の初の地方会議がわがまち新井宿で開催されたことは、誠に意義深いことだと思います。皆さんでこれからも大田区のものづくり企業を応援していきましょう。

編集後記

創刊20周年記念特集号いかがでしたか。盛りだくさんの内容でしたが、大田区長や連合会長、初代編集委員長からの心のもったメッセージを頂戴し、特集号に花を添えていただき誠にありがとうございました。

創刊当初、1面の最下段に、「この情報紙は、思いやりとふれあいのある町づくりに役立つよう願って発行しています。」と刷り込まれていました。われわれ編集委員一同、初心に立ち返り、

更なる地域力の向上のため、微力ながら編集に取り組んでまいりますので、今後ともご愛読の程よろしくお願い申し上げます。

また、最後になりましたが、昨年度で編集委員長の高橋紗英子さんが交代されました。平成6年から編集委員として長期にわたり地域情報紙のためにご尽力いただきました。本当にありがとうございました。

(若生編集委員)

発行 地域力推進新井宿地区委員会
 編集 「わがまち新井宿」編集委員会

- | | | |
|------------|--------|--------|
| 中央四丁目町会 | 編集委員長 | 若生 一順 |
| 山王三丁目東自治会 | 副編集委員長 | 荒木 秀樹 |
| 中央一丁目町会 | 副編集委員長 | 齋藤 啓子 |
| 山王三・四丁目自治会 | 編集委員 | 山崎 三津子 |
| 山王三丁目町会 | 編集委員 | 荒井 壽子 |
| 新井宿五丁目町会 | 編集委員 | 加藤 弘子 |
| 新井宿六丁目町会 | 編集委員 | 河原 神風代 |
| 新井宿七丁目町会 | 編集委員 | 落合 松枝 |
- ……共同編集……

監修 新井宿自治会連合会

事務局 大田区新井宿特別出張所

大田区中央4-31-14 ☎3776-5391
<http://www.city.ota.tokyo.jp/omori/index.html>